地質学雑誌　第125巻　第4号（通巻1483号）付録　平成31年4月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.22 No.4 April 2019

第 126 年学術大会　2019 年山口大会

宿の予約はお早めに！

日本地質学会第 126 年学術大会（2019 山口大会）は，9 月 23 日（月祝）から 25 日（水）の開催に向けて着々と準備中です．会場となる山口大学吉田キャンパスは湯田温泉が最寄りの宿泊地となります．湯田温泉は断層沿いの湯量豊富な温泉ですが，ビジネスホテルのシングルルームは全部で 600 室と決して多くありません．

現地実行委員会は，そのうち 350 室を会員向けに準備いたしました．学会 HP 掲載の申込要領をご確認いただき，専用の申込み用紙をご利用のうえ，FAX もしくは E-mail でお申し込み下さい．

湯田温泉には，このリストに掲載されていないホテルや旅館も若干ございます．また新山口駅周辺にもビジネスホテルが 400 室分ございます．JR 湯田温泉駅と新山口駅間は約 20 分の乗車になります．車でお越しの方なら，もう少し離れた防府市や宇部市も選択肢に入るかもしれません．なお会場には駐車場を準備してございます．

大会期間中は秋の行楽シーズンですので，お早めに宿を予約して頂けますようお願いいたします．

なお若手会員の皆様は，別途リーズナブルな宿泊先を 40 名分ほど準備してありますので，そちらもご検討ください．若手会員向け宿泊施設につきましては，5 月上旬より募集開始を予定しております．

山口大会現地実行委員会
委員長　脇田浩二

宿泊予約申込締切：2019 年 7 月 30 日（火）

＊申込用紙は，下記問い合わせ先より入手いただくか，もしくは，学会 HP（山口大会プレサイト）からダウンロードして頂けます．

申込み・問い合わせ先：(株) 防長トラベル 山口支店
E-mail：yamaguchi-1@bochotravel.co.jp
TEL 083-922-7543　FAX 083-921-0251
総合旅行業務取扱管理者：藤永晃治
営業時間：月〜土 9:35 〜 18:00（日・祝祭日休業）　担当：藤永・岡

山口大会に向けてのスケジュール

各項目に関して，余裕をもってご準備をお願いします．

5 月末頃（ニュース誌 5 月号）	大会予告記事（演題登録・講演要旨受付開始）
7 月 3 日（水）	演題登録・講演要旨受付締切／ランチョン・夜間小集会申込締切
8 月下旬（ニュース誌 8 月号）	大会プログラム記事
8 月 19 日（月）	大会参加登録／巡検／懇親会参加申込締切
9 月 23 日（月・祝）〜 25 日（水）	第 126 年学術大会（山口大会）

（予告）大会予告記事は，5 月号ニュース誌掲載の予定です．

日本地質学会*News*

Vol.22 No.4 April 2019

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

表2　第126年学術大会　2019年山口大会　宿の予約はお早めに！

ご案内……2
2019年度春期（初心者向け）地質調査研修のお知らせ／第7回堆積実験オープンスクールのお知らせ

各賞・研究助成……2
勝山市ジオパーク学術研究等奨励事業募集／ 2019年度筑波山地域ジオパーク学術研究助成金募集／第10回（2019年度）日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦／住友財団2019年度研究助成／ 2020年～ 2021年開催藤原セミナーの募集

学協会・研究会報告……4
第8回学生のヒマラヤ野外実習ツアー報告（吉田　勝）

意見・提言……5
平成31年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する意見書の提出／研究論文不正問題を受けて

日本地質学会企画の「一家に1枚」ポスター発行～日本列島７億年の歴史と列島の地質をビジュアル化～……6

地質図に関するJIS（日本工業規格）改正に関するお知らせ……6

日本地質学会が大型研究計画に提案！！「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」……7

第10回惑星地球フォトコンテスト審査結果……8

2019年地質の日行事……12
第10回惑星地球フォトコンテスト：入選作品展示会・表彰式／第8回街中ジオ散歩in Hamura「東京の水インフラと地形・地質～羽村取水堰とその周辺～」徒歩見学会／第36回地球科学講演会「OSL年代－砂粒に刻まれた時の記憶」／北海道支部：2019年度（第12回）地質の日記念展示「失われた川を尋ねて『水の都』札幌」／地質の日記念講座「三浦半島活断層群主部，北武断層を歩く！」

CALENDAR……13

追悼……14
名誉会員　吉田　尚さんを偲ぶ（滝澤文教）

出版物在庫案内……15

一般社団法人日本地質学会第11回総会開催について……16

入会申込書……14

巻末　会費口座振替依頼書

表紙紹介
第10回惑星地球フォトコンテスト：最優秀賞
「月下の大噴煙」（撮影：横江憲一）
（詳細は，本誌8p参照）

事務局営業カレンダー　お休み

4月 April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月 May

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します.

2019年度春期（初心者向け）地質調査研修のお知らせ

日時：2019年5月20日（火）～24日（金）
場所：島根県出雲市長尾鼻周辺（小伊豆海岸）
研修内容：
露頭の地層・岩石の観察ポイントからまとめまで，地質図を作成するための一連の基本的事項を5日間の研修で習得します．少人数でマンツーマンに近い形での研修で地質調査技術を学びます.
※今回は，主に地質図を書いた経験のない方，岩石の見方に不安のある方など，企業の地質初心者を対象にしています．ふるってお申し込み下さい.
定員：6名（**申込締切：5月13日（月）正午**）（定員になり次第締切）
CPD：40単位
参加費：30口（1口2000円）の会費が必要です.
申込：training-gsj-ml@aist.go.jp
主催：産総研コンソーシアム41「地質人材育成コンソーシアム」
詳細は地質調査総合センター H.P.をご覧ください.
https://www.gsj.jp/geobank/geotraining.html
お問い合わせ
産総研 地質調査総合センター
地質調査研修 事務局
TEL：029-861-3540
E-mail：training-gsj-ml@aist.go.jp

第7回堆積実験オープンスクールのお知らせ

京都大学地球惑星科学オープンスクールの一環として，堆積実験オープンスクールを開催します．堆積学では，水槽実験は野外調査に並んで重要な研究手法です．本スクールでは，主に学部生を対象として，堆積学における実験的手法に関する基礎的な講義・実習を行います.
日時：2019年6月9日（日）10:00 ～ 17:00（予定）
場所：京都大学理学部１号館
参加費：無料
対象：学部3～4回生（修士以上も空きがあれば可）
学習内容：
・現世河川の観察
・水理学・相似則の基礎
・小型水路による水理パラメータ計測実習
・ベッドフォーム形成実験
・大型水槽による重力流実験・地形計測
申込方法：メール（naruse@kueps.kyoto-u.ac.jp）
申込締切：6月3日（月）
定員：7名（先着順）
場所などの詳細はスクール案内ページ（http://ow.ly/La9330jhzoy）および京都大学地球惑星科学専攻Webページ（http://www.eps.sci.kyoto-u.ac.jp/）をご覧ください.

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

勝山市ジオパーク学術研究等奨励事業募集

補助対象研究：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークに関する地形・地質調査研究及びその活用方法，地形・地質遺産及びそれに関わる地域資源を活用した地域の活性化に関する調査研究で次に掲げるものとします.
(1) 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークを対象とした地形・地質調査研究
(2) 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークと地域の関わり等に関する社会・人文科学調査研究
補助対象者：以下の個人もしくはグループ
(1) 大学に在籍する学生又は大学院生
(2) 大学，研究機関等に所属する教員又は研究員
(3) その他市長が認めた研究者
補助金の額等
(1) 補助金の交付額　予算の範囲内において，1件あたり上限20万円（補助対象経費が20万円未満の場合は，その該当額)
(2) 補助対象経費
・原材料の購入等に要する経費
・消耗品の購入に要する経費
・研究員等に係る在籍大学，所属機関等の所在地から勝山市までの 往復交通費及び勝山市滞在中の宿泊費
・調査地までの移動や調査に必要な車両等の借り上げ料の実費
・その他研究活動に要する経費で市長が認めるもの
応募締切：2019年5月31日（金）
詳細は，以下のurlをご参照ください.
https://www.city.katsuyama.fukui.jp/soshiki/11/1531.html?fbclid=IwAR16vrY0eiX4_pUx6A9YdJUGHSzWqMb49X9xbMj8n-dFqq4sd-KmSeWpIOU
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
【勝山市　ジオパークまちづくり課】
〒911-8501　福井県勝山市元町1丁目1番1号
TEL：0779-88-8126(直通)/FAX：0779-88-1119
FB：https://www.facebook.com/katsuyamageopark/

2019年度筑波山地域ジオパーク学術研究助成金募集

1. 助成対象研究：以下の研究のうち，2020年2月末日までに完了するものとする.
(1) 筑波山地域ジオパークにおける地球科学分野の研究
(2) 筑波山地域ジオパークにおける生態，生物学分野の研究
(3) 筑波山地域ジオパークにおける歴史，文化に関する研究
(4) 筑波山地域ジオパークにおける地域振興に関する研究
(5) 筑波山地域ジオパークにおける教育に関する研究
2. 助成対象者：以下の個人または団体のうち，研究開始から2年以内にその成果を学会で発表，もしくは学術雑誌等に投稿できるもの.
(1) 大学あるいは研究機関に籍を置く大学生，大学院生，研究者
(2) 小学校，中学校，高等学校，特別支援学校の教員
(3) その他，選考委員会が認めた者
3. 助成額と採択件数：1件あたり上限20万円. 1～2件程度.
4. 応募方法：以下の書類を郵送して下さい.
(1) 申請書
(2) 在学証明書または職員証
5. **応募締切：2019年5月31日（金）（必着）**
6. 審査と交付：筑波山地域ジオパーク教育・学術部会で選考委員会を開催し，厳正なる審査に基づき決定します．審査結果は6月中に通知し，交付するとともに，採択された研究をホームページ上で発表します．また，申請時の助成額と審査後の助成額が異なる場合は，研究計画書の再提出を求めます．なお，審査の過程に関するお問い合わせには一切お答えできません.
詳しくは，https://www.tsukuba-geopark.jp/page/page000496.html

第10回（2019年度）日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦

対象分野
人文学，社会科学及び自然科学にわたる全分野
対象者
　以下の①②の条件を満たす者を対象とします

すが，推薦に当たっては，論文等の業績のみにとらわれず，将来，我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な者，経済的に困難な状況や研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして主体的に研究を進めている者など多様な観点から推薦願います．
①我が国の大学院博士課程学生であって，平成31年4月1日において34歳未満の者で，平成31年（2019年）5月1日において次の1）から4）のいずれかに該当する者
1）区分制の博士後期課程に在学する者
2）一貫制の博士課程3年次以上の年次に在学する者
3）後期3年のみの博士課程に在学する者
4）医学，歯学，薬学又は獣医学系の４年制博士課程に在学する者
②大学院における学業成績が優秀であり，豊かな人間性を備え，意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者
※海外からの留学生で上記の条件を満たす者も対象にしています．
総授賞数
授賞数は16名程度とし，受賞者には，賞状，賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します．
受付期間
2019年6月3日（月）～7日（金）17:00（締切）
［学会締切：5月15日（水）］
推薦書類の提出先及び問い合わせ先
推薦書類は下記へ，配達記録の残る方法での送付によって提出してください．なお，配達会社のホームページ等で到着の確認をしてください．
〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1
独立行政法人日本学術振興会
人材育成事業部研究者養成課「日本学術振興会 育志賞」担当
TEL 03-3263-0912 FAX 03-3222-1986
http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html

住友財団2019年度研究助成

基礎科学研究助成
助成対象研究：理学（数学，物理学，化学，生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む．）
応募資格：若手研究者（個人またはグループ．所属が営利企業の場合には応募不可）
助成金：総額 1億5,000万円（１件当たり最大500万円）
助成件数：90件程度
環境研究助成
助成対象研究：
・一般研究　環境に関する研究（分野は問いません．）
・課題研究　2019年度募集課題「深刻化する環境問題の理解および解決のための学際研究または国際共同研究」
応募資格：研究者個人またはグループ．所属が営利企業の場合には応募不可．
助成金：
一般研究 7,000万円 1件当たり最大500万円
課題研究 3,000万円 1件当たり最大1,000万円
助成件数：一般研究 50件程度，課題研究3件を予定
募集締切：応募手順が２段階になっています．詳細はHPの応募方法をご確認ください．
1）E-mail締切：6月10日（月）
2）郵送の締切：6月30日（日）
応募方法：
ア）財団ホームページから申請書類をダウンロード，イ）申請書の作成，ウ）申請書の取得，エ）申請書類の送付
連絡先：
〒105-0012　東京都港区芝大門1-12-16　住友芝大門ビル2号館
公益財団法人　住友財団
TEL：03-5473-0161　　FAX：03-5473-8471
E-mail：sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp
URL:http://www.sumitomo.or.jp/

2020年～2021年開催 藤原セミナーの募集

1. 対象分野
自然科学の全分野
2. 応募資格
わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数
2件以内
4. 開催費用援助額
1件につき　12，000千円　以内（総額24,000千円以内）
5. セミナーの要件
（1）セミナーは，国際的にも学問的水準の高いものとし，そのテーマはなるべく基礎的なもので，関連分野を含めた発展に寄与するものであること．但し二国間会議，定期的に行われる国際会議，およびその準備会議，サテライト会議は対象としない．
（2）参加者は，50～100人程度とし，外国人研究者が参加者の5分の1程度含まれること．なお，国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する．
（3）セミナー開催対象期間は，2020年1月1日～2021年12月31日
（4）セミナーの開催地は，日本国内であること．
（5）セミナー開催日数は，2～4日以内とする．
（6）参加者が，セミナー開催期間中，起居を共にすることを原則とし，計画された講演・討論のほか，個人的な討論など自由な雰囲気で学問的な交流と人間的接触を深め，永続する協力の基盤を作るようなものであること．
6. 申請受付期間
2019年4月1日（月）～7月31日（水）（必着）
（学会締切7月2日（金））
7. 当財団が支給する経費
セミナー開催に直接必要な経費として当財団が認めたもので，その費目は次のとおりとする．
（1）準備費：準備費は，セミナー開催の準備のために必要な国内外旅費，印刷製本費，通信運搬費，会議費，賃金，消耗品費，雑役務費等とする．
（2）海外参加者旅費
（3）国内参加者旅費
（4）セミナー経費：セミナー経費は，セミナー開催期間中に必要な組織責任者等の旅費，印刷製本費，通信運搬費，会議費，レセプション経費，賃金，消耗品費，雑役務費等とする．
8. 申請の方法
セミナー開催希望者は，「藤原セミナー開催申請書」（1通）を，**所属組織長を経由して当財団に提出すること**．尚，著名な参加予定者については，セミナーのテーマに関する主要論文（5名以内1人につき1篇，コピーで可）を添付のこと．
申請書提出先・連絡先
〒104-0061 東京都中央区銀座3 - 7 - 12
公益財団法人　藤原科学財団
TEL (03) 3561 – 7736　FAX (03) 3561 – 7860
藤原科学財団ホームページ　　http://www.fujizai.or.jp

学協会・研究会報告

第８回学生のヒマラヤ野外実習ツアー報告

吉田　勝（ゴンドワナ地質環境研究所）

表題の実習ツアーは日本発着3月4日～18日の15日間にわたって実施され，好天に恵まれ，特筆される問題もなく無事終了した．参加者は総勢20人で，日本各地10大学（北大・弘前大・東北大・筑波大・信州大・千葉大・名大・岡山理大・神戸大・広島大）の１年生から修士課程1年生の14人，高校1年生1人，一般2人，中国の北西大学生1人，ネパールトリブバン大学生2人であった．一般参加の2人はカトマンズでの現地参加であった．ツアー実施前に日本人の指導登録者24人を対象にツアーリーダーの公募を行い，ヒマラヤの野外地質調査に長い経験を持つ丸尾祐治博士（株・地球システム科学・上席技術顧問）にサブリーダーとして参加頂くことができた．また，トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室（TU）からM. Paudel准教授に参加頂いた．

3月4日，中国南方航空で関空或いは中部国際空港を出発して広州経由でカトマンズに同日深夜に到着した．翌日5日午前中はTU学生数人も参加してプレツアーセミナー，午後はTU学生20人と合同で4組に分かれて市内の世界文化遺産見学を行った．夕方にはツアーチームの懇親夕食会を，TU教室主任代行のP.D.Ulak准教授の参加を得て市内のローカルレストラン「クマリ」で行った．

6日～15日はバスおよびジープでカトマンズ－ポカラ－ムクチナート－ポカラ－タンセン－ルンビニ－ナラヤンガート－ムグリン－カトマンズのコースで地学野外実習ツアーを予定通り実施することができた．なお，カグベニ～ムクチナート間は積雪のため露頭での化石探索は難渋した．また，他の区間でも，積雪やジープの故障のため，例年行っていた野外スケッチは取り止めざるを得なかった．

野外実習ツアーでは，メンバーの点呼委員会・食事各種の注文受付委員会・ホテルの部屋割り委員会などを学生数人ずつで構成し，多くの学生がツアーの運営に多少携わるようにした．また，一般参加の黒川佳澄氏（東京海外旅行研究会）には，参加者の体調観察役としてご尽力頂いた．今回の実習ツアーの指導者は吉田の他に初参加の丸尾博士，TU派遣の Paudel博士に加えて，一般参加の棚瀬充史氏（地圏総合コンサルタント・技術顧問）にもご協力頂いて4人となり，ツアーの実習効果は大いに上がったと思われる．

カトマンズ帰着翌日の3月16日午後は，TU学生も多数参加して参加者全員が１）最も感動した地学関連事象，２）最も感動した地学関連以外のことの2点について英語で報告し，質疑応答が行われた．夜はトリブバン大学地質学教室関係者も加えたさよならコンパが市内の日本食堂「桃太郎」で行われ，久しぶりの日本食で大いに盛り上がった．翌17日は終日，TU学生18人に案内されて3組に分かれて市内見学会を行った．同日深夜にはカトマンズ発，翌日日本帰着となった．

上記のように，実習ツアーは予定通り実施できたが，道路の拡張工事による交通止めは各所で数時間あり，また，深刻なジープの故障が4台中3台に発生し，行程の確保に苦労を強いられた．一方，カグベニ - ムクチナート間とナラヤンガート - ムグリン間は道路舗装が完成しており，快適に通行できた．道路工事の様子からすると来年はさらに舗装区間も広がり，全行程でバスが利用できそうで，行程が楽になるであろう．

参加者全員，深刻な健康問題は無かったが，ムクチナート到着前後から軽度な高山病や胃腸障害を発症した学生が8人，ツアー終了近くのルンビニ宿泊時前後に胃腸障害を発症したものが4人と，例年よりも格段に多かった．いずれも適当な薬の服用で回復したが，罹患した参加者にはつらい日々となった．原因は多くの場合環境変化と精神的なストレスではないかと推定され，今後に問題を残した．

航空運賃以外の実習ツアーの経費は日本人学生参加者15人の１人当たり114,593円，一般参加者2人はプラス50,000円の164,593円であった．しかし３組織からの寄付金と一般参加者の寄与による収入が405,000円あり，実際のツアー参加費は一人当たり学生が90,769円，一般が140,769円であった．航空運賃が例年よりも3万円前後高額で学生一人当たり平均89,412円であったため，学生の一人当たり平均参加費総額は180,181円であった．

以上，実習ツアーは予定通り全行程を無事に終了し，参加者も各自なりに大きな収穫を得たと思われる．とりわけ，参加者に多少ともツアー運営にかかわって頂いた今回の試みは，参加者に幾分とも自主的手作り実習ツアーを意識して頂けたのではないかと思われる．

写真：ムスタンの山々をバックに，カグベニ東のテラスでSHET-8参加者全員集合

来年3月の第9回学生のヒマラヤ野外実習ツアーは今回の経験を踏まえ，行程を若干楽にする方向を検討する予定であり，今回の実習ツアーの報告書発行を予定している5月には参加者募集を開始したい．

本実習ツアーを主事業とする学生のヒマラヤ野外実習プログラムには，日本地質学会をはじめ多くの組織と個人の方々にご後援名義やご推薦を頂いている．また，全国の大学の地学関連教室には，所属学生に対する本実習ツアーの周知にご協力頂いた．記して謝意を表したい．

意見・提言

平成31年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する意見書の提出

独立行政法人大学入試センターへ，平成31年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する意見書を提出しました．

平成31年3月31日

独立行政法人　大学入試センター
理事長　山本廣基様

一般社団法人日本地質学会
会長　松田博貴

平成31年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する意見書

日本地質学会は，ここ数年にわたり，大学入試センター試験の地学関連科目の問題作成および得点調整に関わって，意見並びに改善に向けた要望を大学入試センターに申し入れしてきたところです．その要望の主眼は，地学関連科目の平均点が他の理科科目に比べて低くならないようにしていただきたいということでありました．本年に実施されました平成31年度大学入試センター試験（本試験）の地学関連科目に関して，以下のような意見を申し入れ致します．

(1) 理科①の「地学基礎」においては基礎的な問題が出題されており，適正かつ良質な問題であったと考えます．
(2) 理科②の「地学」においては出題に工夫がみられ，良質な問題であったと考えます．しかしながら，「地学」の平均点は46.34点で，平均点が最も高かった「生物」との差は16.55点であり，昨年に続き他科目に比べて低い得点となりました．問題・配点等を工夫していただき，平均点が他科目に比べて低くならないようにしていただきたくお願い致します．

研究不正問題を受けて

研究不正問題を受けて，下記文章を発表しました（学会ホームページ掲載）．

2019年4月4日

研究論文不正問題を受けて

一般社団法人日本地質学会
会長　松田博貴

本年3月，地球科学分野において研究論文の不正問題に関する発表があり，地球科学関連学会である日本地質学会としても大きな衝撃を受けています．

日本地質学会は，2003年に「日本地質学会倫理綱領」を定めるとともに，2011年に「日本地質学会行動規範」を制定し，学会員に対してこれらを遵守することを求めてまいりました．同時に，地質学の成果が与える社会的影響を自覚し，客観的データ・事実に基づき公正，誠実に行動することで，地質学が社会から信頼を得るための不断の努力をしてまいりました．研究不正は，地質学の発展にきわめて深刻な影響を与え，地質学に対する信頼を失墜させることと重く受け止めねばなりません．

ここに日本地質学会会長として，改めて会員の皆様に倫理綱領および行動規範の遵守を呼びかけます．日本地質学会は，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を遂行するよう努力してまいります．

日本地質学会倫理綱領
http://www.geosociety.jp/outline/content0010.html
日本地質学会行動規範
http://www.geosociety.jp/outline/content0198.html

地質リーフレットたんけんシリーズ5

長瀞（ながとろ）たんけんマップ

荒川（あらかわ）が刻（きざ）んだ地球の窓（まど）をのぞいてみよう

「ジオパーク秩父」の
重要なジオサイトのひとつ
長瀞のたんけんマップができました

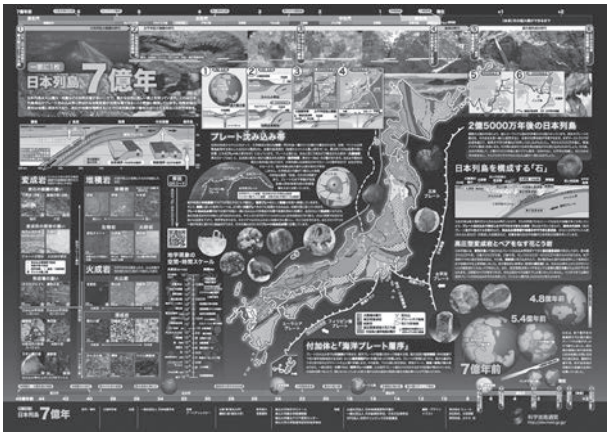
編集：日本地質学会長瀞たんけんマップ編集委員会
（高木秀雄・本間岳史・露木和男）
発行：一般社団法人日本地質学会
A2版8折　両面フルカラー印刷

定価400円
（会員頒価300円）
※20部以上ご注文の場合は割引あり

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

日本地質学会企画の「一家に1枚」ポスター発行

～日本列島７億年の歴史と列島の地質をビジュアル化～



科学技術週間「一家に1枚」シリーズは，「大人から子供まで部分的にでも興味を持たせる」「見た目がきれいで，部屋に貼っておきたくなる」「基礎的・普遍的な科学知識を中心とする」「身近な物や事象を基本コンセプトに，科学技術のより一層の普及・啓発を図り，広く一般の方々に科学技術に親しむ機会を提供することを目的に，文部科学省が発表しているA3サイズの科学系ポスターです．

平成31年度（第60回）は，日本地質学会が提案した企画が採択され，期間中（平成31年4月15日～21日），「一家に1枚 日本列島7億年」ポスターが，全国の小・中・高等学校等に配布されます．また全国の科学館などで無料配付されます．

「一家に1枚 日本列島７億年」ポスターは，日本列島の地質の複雑さと，周辺プレート境界の位置を知るための地図の他，プレート沈み込み帯でできる岩石の写真，プレート沈み込み帯についてのイラストと解説，日本が誕生した約７億年前から，はるか遠い未来，太平洋が消滅するまでの未来予想まで描いた地質年代表などが，国産の美しい鉱物・化石の写真と一緒にビジュアル化されています．

「一家に１枚　日本列島7億年」ポスターは，
科学技術週間のウェブサイト（http://stw.mext.go.jp/）からA3判をダウンロード可能です．

地質図に関するJIS（日本工業規格）改正に関するお知らせ

JIS原案作成委員会（委員長：宮下純夫元会長，日本地質学会推薦）が取りまとめた地質図に関するJIS（日本工業規格）原案が，経済産業省の審議を通過し，規格が改正されました（2019年3月20日）．

・JIS A0204「地質図－記号，色，模様，用語及び凡例表示」改正
・JIS A0205「ベクトル数値地質図－品質要求事項及び主題属性コード」改正

日本工業標準調査会HPの検索システム
http://www.jisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html
の「JIS規格番号からJISを検索」にA0204ないしA0205を入力し，検索してください．検索結果からJISの閲覧が可能です．

日本地質学会の出版物等でも，地質年代表記を含む地質用語・記号等の使用はJISに準拠することを推奨しています．JIS A 0204，JIS A 0205は，論文や記事を執筆の際にも，地質用語・記号等の表記法の拠り所となるものですので，会員の皆様も是非ご参照ください．

日本地質学会が大型研究計画に提案！！「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」

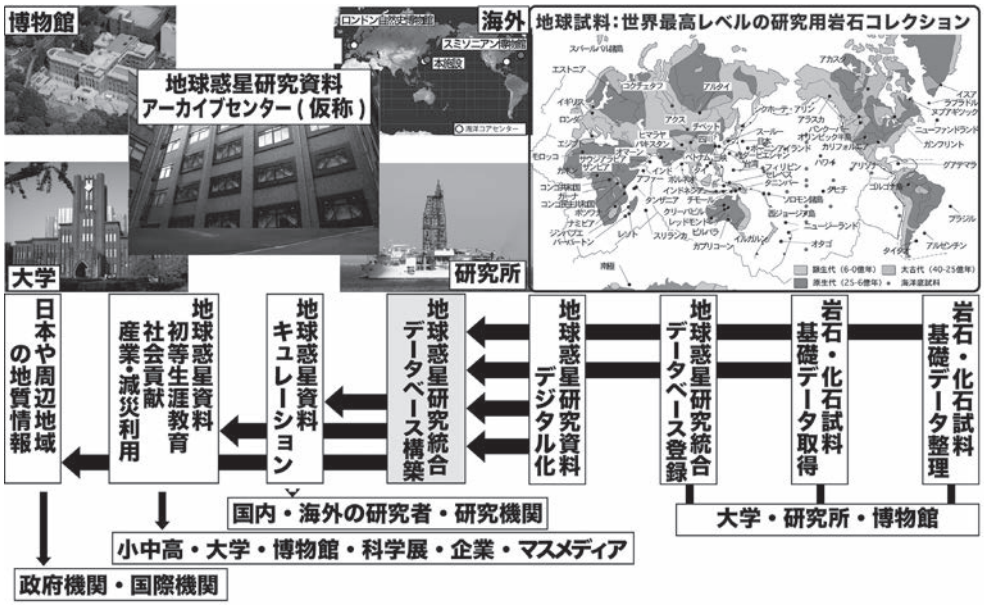
一般社団法人日本地質学会
執行理事会

大型研究計画とは，世界の学術研究を先導する画期的な成果を挙げる大型プロジェクトを，社会や国民の幅広い理解と支持を得つつ，国家プロジェクトとして推進する施策です．研究分野コミュニティの意向を踏まえて，日本学術会議が選定し，文部科学省が推進します．3年ごとに改定され，今回が第24期となり，全面的な改定が予定されています．大型研究計画の提案カテゴリーには大型施設計画と大規模研究計画があります．日本地質学会では，多くの会員が切望し，かつ現在のみならず将来にわたって持続的に地球科学研究を発展させるために「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」を大型施設計画として提案しました．以下に，提案内容について概説します．

日本で近代科学が産声をあげて150年，日本の研究者は公的な研究費を用いて国内外から多くの岩石・化石試料や隕石，地質・地形情報等（以下，地球惑星研究資料または資料）を集めてきました．しかし，博物学が重要な位置付けを占める欧米と異なり，日本では研究資料のキュレーション施設の整備が大きく立ち遅れています．そのため，学術的価値の高い資料や科学的遺産にあたる資料でさえ維持するのが難しい状況です．加えて各国の土地開発や紛争及び試料の採取・持出制限によって，新たな外国産資料の確保がますます困難になりつつあります．そこでキュレーションがますます重要となるのです．既存資料の保管による科学的貢献の例として，近年のアポロ試料の再分析による月の水の存在の新証拠の発見やカンブリア爆発の概念を創出したバージェス頁岩の研究等があります．どちらも30年以上，公的機関に保管された試料の研究から始まりました．さらに，近年の急速な研究技術の進歩を考えると，現在不可能とされる化石の超微量分析，古代ゲノム，地震時に形成された断層岩の超微小領域解析も将来可能となるでしょう．

本計画は，資料のデジタル化とそのオープンアクセス化，現在分散保管されている資料のアーカイブ化とそれらを網羅する統合データベースの構築，そしてそれらのデジタルデータと実試料の保管・提供を統括する『地球惑星研究資料アーカイブセンター』の新設を提案します．その体系を早急に構築することで，短期には現在日本の地球科学において国際競争力のある岩石・化石試料を基盤とした研究分野を支え，長期では未来の研究者との共同研究として研究技術が高度に発達した30～100年後を見据えた科学の発展に寄与します．また，古地形や地盤データのオープンアクセス化，資源試料の提供及び研究資料の博物館，初等教育機関及びマスメディアへの貸出の一括管理は日本の産業，都市開発，生涯学習及び初等教育にも貢献することが期待されます．

今後の予定として，5月27日（月）に日本地球惑星科学連合2019年大会のユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道9：大型研究計画とマスタープラン2020」にて，大型研究計画の公聴会があります．本提案は，14時08分から発表予定です．当日は各発表について，随時アンケート投票が受け付けられ，地球惑星科学に携わる研究者から広く意見を聴取する予定です．



第10回 惑星地球フォトコンテスト審査結果

このコンテストは今年で10年目を迎えました．今年の応募点数は338点，うち一般310点，中・高校生28点，ジオ鉄９点，スマホ41点でした．応募点数は昨年の590点よりも減少して内容低下が心配でしたが，実際には数多くの力作が寄せられており，審査会では応募作品を楽しみながら選出することができました．

今年の入選作の特徴は，12点のうち6点が夜の作品だったことです．10数年前までは夜の撮影では10分以上の露出時間が必要でしたが，最近では数十秒の露出時間で済み，撮影結果を見てから撮り直しもできるようになりました．とはいうものの暗い中での構図取りやカメラ操作，現地までのアクセスなどは困難を伴うものです．それにもかかわらず，夜のジオをテーマにしたレベルの高い作品がこれだけ集まったことを嬉しく思います．

（総評：審査委員長　白尾元理）

最優秀賞：月下の大噴煙
撮影者：横江憲一（北海道）

撮影場所：北海道　雌阿寒岳　頂上附近の稜線
審査委員長講評：阿寒岳は日本百名山の１つで，月齢10の月が雌阿寒岳の火口を逆光気味に照らしています．魚眼レンズを使用していますが水平にセッテングしているために歪みがなく，たなびく白煙，その向こうに見える阿寒富士，雲海の上に浮かぶ月と星々，広がりがあって気持ちの良い作品です．4500万画素の高画素カメラとシャープなレンズの組み合わせで撮影されており，大伸ばしでの作品をじっくり見たいものです．（今月号の表紙写真）

第10回惑星地球フォトコンテスト展示会
5月14日（火）～19日（日）
場所：東京パークスギャラリー（上野グリーンサロン内）
（台東区上野公園）
入場無料，どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい．

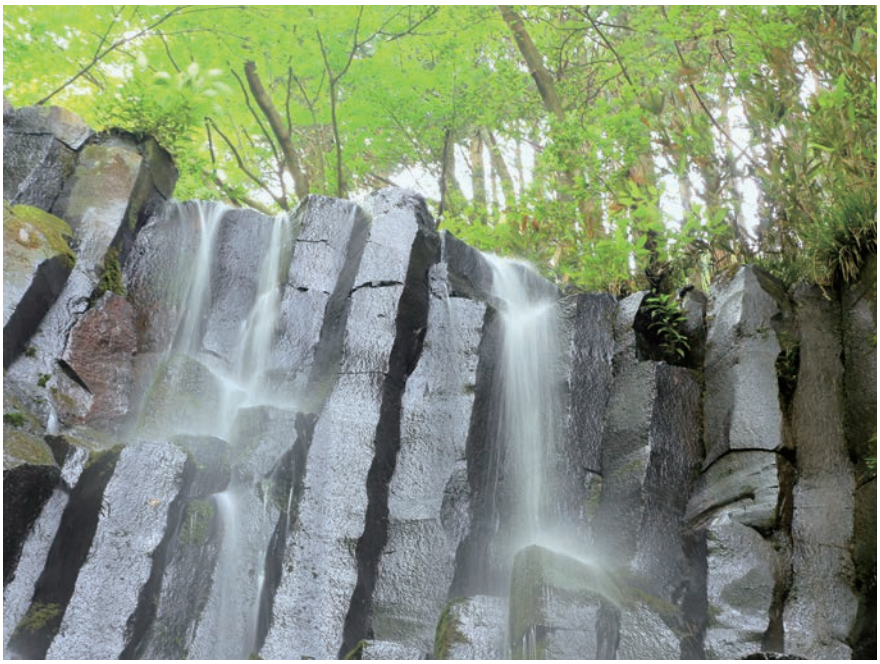
第10回惑星地球フォトコンテスト表彰式
5月25日（土）11:00～12:30（予定）
会場：北とぴあ 第2研修室会議室（東京都北区王子）
入選作品の展示も行います！

優秀賞：枕と星屑と
撮影者：森田康平（東京都）

撮影場所：東京都　小笠原村父島　小港海岸
審査委員長講評：小笠原諸島の父島周辺には枕状溶岩の露頭がたくさんありますが，海に面した急崖が多く，陸上で見やすい場所は限られます．その数少ない場所が小港海岸で，ここでは多くの写真が撮影されています．この作品も上弦過ぎの月光と超広角レンズを使ってうまく撮影しています．低空に白雲があったのが少し残念でした．

優秀賞：月明りのメテオラの谷
撮影者：川口雅也（神奈川県）

撮影場所：ギリシャ　テッサリア地方　トリカラ県　カランバラ
審査委員長講評：メテオラはギリシャ北西部にあり，石灰岩の岩峰群の上には 14 ～ 16 世紀に修道院が建てられました．1988 年には世界遺産に登録されています．従来の応募作品には「ジオ＋星景」という組合せはありましたが，この作品ではさらに歴史が加わりました．月齢 13 の月光に照らされた石灰岩の岩肌，修道院の建物，遠くの街明かりからは現代人の営みなどさまざまな思いを巡ることができます．

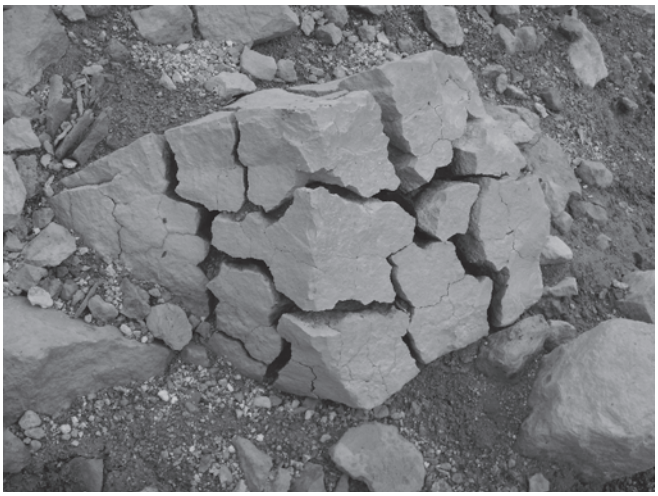


ジオパーク賞：新緑の六方の滝
撮影者：齋藤敏雄（神奈川県）

撮影場所：神奈川県　湯河原町鍛冶屋　新崎川上流（箱根ジオパーク）
審査委員長講評：六方の滝は，箱根火山のカルデラ形成期噴出物である幕山溶岩にかかる落差 20 mの滝です．作者は望遠レンズで滝上部をクローズアップしました．滝の飛沫に濡れた柱状節理の岩肌が美しく，後方の新緑と相まって落ち着いた雰囲気の作品となっています．

ジオ鉄賞：川底を抜けて
撮影者：桑田憲吾（東京都）

撮影場所：滋賀県湖南市　JR 草津線甲西―三雲間　大砂川隧道付近
講評・解説：写真は JR 草津線三雲 - 甲西間で柘植方面へ列車を見送っている風景です．平らに見える土手は典型的な天井川の大沙川で，列車が河底をくぐる瞬間を捉えています．河川勾配も読み取れる優れたアングルです．大砂川トンネル（14.5 m）は 1889（明治 22）年建設当時のまま今に至る煉瓦造りの貴重な河底隧道で，トンネル完成後に電化したため（草津線の全線電化は 1980（昭和 55）年），トンネル部分の路盤を低く盤下げして架線を通した様子も作品に写し込まれています．鉄道の旅を通して大地の成り立ちと変化に思いを馳せる「ジオ鉄賞」に相応しい作品です．（深田研ジオ鉄普及委員会 藤田勝代）
（注）河川名は「大沙川」，トンネル名は「大砂川トンネル」．いずれも読みは「おおすながわ」



日本地質学会会長賞：ルービックキューブ
撮影者：島村哲也（茨城県）

撮影場所：北海道　雌阿寒岳　ポンマチネシリ
審査委員長講評：この作品は，最優秀賞と同じ雌阿寒岳で撮影されたパン皮状火山弾です．肩の力を抜いてあっさりと撮影したようにみえるのがこの作品の魅力です．火山弾の落下時には割れ目がなく，落下後に内部が膨らむ結果，表面にこのような割れ目ができるのです．火山学の教科書に使いたくなるような作品です．

スマホ賞：大地のグラデーション
撮影者：加古原恵（東京都）

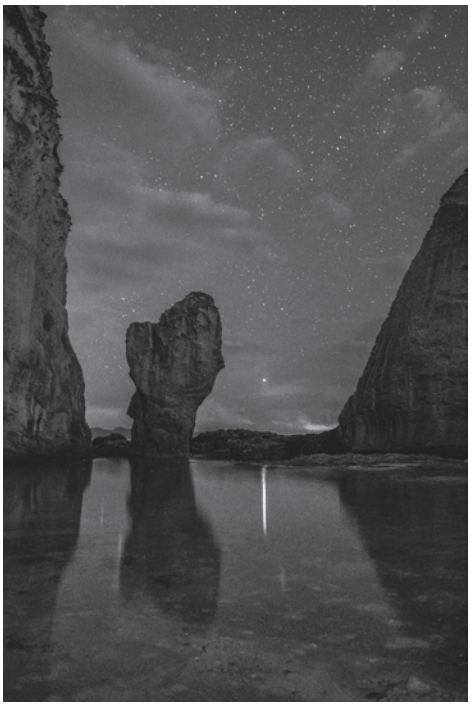
撮影場所：ベトナム　ムイネー　スイティエン (妖精の渓流)
審査委員長講評：ムイネーはベトナム南部のホーチミン市からバスで 6 時間の海岸にあるリゾートで，近くにあるのがこの渓流です．長さ 600 m，崖の高さは 20 m程度ですが，この作品では崖上部の赤い地層に目が惹かれます．対岸の緑との対比でより鮮やかに赤が際立ちます．しかし雲が青味をおびていることからもわかるように彩度が強調されており，赤い地層も同様です．過度な彩度強調は実物とかけ離れてしまうのでご注意下さい．

入選：キラウエア火山の溶岩湖
撮影者：田中信彦（東京都）

撮影場所：ハワイ　キラウエア火山山頂　ジャガーミュージアム前
審査委員長講評：最初はエチオピアのエルタ―レ火山の溶岩湖を撮影した作品と勘違いしましたが，キラウエア火山ハレマウマウ火口の直径 150 m程の溶岩湖の溶岩水位が運良く上昇した時を捉えて撮影した作品でした．このように撮影できたのは最近数十年間ではわずか数か月だけ．その後，南東山麓からの割れ目噴火によってキラウエア山頂部は陥没し，この溶岩湖も消滅しました．

入選：巨岩砲
撮影者：長谷 洋（和歌山県）

撮影場所：和歌山県 西牟婁郡白浜町富田の磯　メズロノ鼻付近
審査委員長講評：不思議な雰囲気の作品です．モデルが立っている地層はほぼ水平ですが，その上に2つの巨岩が置かれています．夏の正午，トップライトの光線でできた影が巨岩の存在感を強く感じさせます．この巨岩はどこから来たのでしょうか．モデルの立ち位置やポーズも決まっています．



入選：雷光のヴィーナス
撮影者：白山健悦（青森県）

撮影場所：青森県　佐井村仏ヶ浦
審査委員長講評：昨年は昼の仏ヶ浦で最優秀賞を獲得された作者が，今年は夜の仏ヶ浦を応募されました．夜の仏ヶ浦に行くには長い階段を降りなければならず，潮の満ち引きにも注意しなければなりません．やはり土地勘のある地元の作者ならではの作品です．奇岩の間に見える月光がないのに明るい空と雲間からのぞく無数の星，地平線付近の雷光（街明かり？），夢心地のような作品です．

入選：地球を削る（中学・高校生部門）
撮影者：荒岡柊二郎（東京都）

撮影場所：東京都西多摩郡奥多摩町　ねじれの滝
審査委員長講評：冬の苔の少なくなる時期を選び，岩肌をはっきりととらえたのは良いアイデアでした．ジオフォトらしく，ねじれの滝をつくる層状チャートの岩相が明瞭に映し出されています．しかし難しいのは露出で，岩肌に露出を合わせるとこのように空が露出オーバーになってしまいます．HDR によって空の部分も描写できれば，より魅力的な作品になったことでしょう．

佳作（計4点）
惜しくも入選には至らなかったものの，より多くの優れたジオフォト作品を発掘するために「佳作」を設けています．作品画像は学会HPで紹介します．
「大陸分裂の始まりか－ビクトリアの滝－」横山俊治（東京都）
「デビルズタワーに昇る夏の大三角」川口雅也（神奈川県）
「屏風岩の夕景」武藤達郎（千葉県）
「歴史（とき）の彫刻」佐藤悠大（福岡県）
※入選作品，佳作の各作品画像や撮影者からのコメント，地質学的解説は学会ホームページ「地質フォト」のページに掲載しています．

入選：風雅
撮影者：佐藤悠大（福岡県）

撮影場所：長崎県平戸市生月町　潮俵断崖
審査委員長講評：北九州には新第三紀の柱状節理が広く見られますが，生月島の潮俵断崖もそのひとつです．この作品は濃い ND フィルターをかけて日没直前に 219 秒の長時間露光をしたものです．そのため波が手前の柱状節理上面をベールのように覆い，バックの海面の波は消されています．遠方には夕日に照らされた柱状節理の崖，雲の動きも表現されて幻想的な作品になっています．

5月10日は 地質の日

2019年の「地質の日」学会関連のイベントをご案内します．
イベントの情報は，学会HP< http://www.geosociety.jp>で
随時更新していますので，あわせてご覧下さい．

★第10回惑星地球フォトコンテスト

入選作品展示会

日程：**2019年5月14日（火）～19日（日）**
場所：東京パークスギャラリー（上野グリーンサロン内）（台東区上野公園7）
https://www.tokyo-park.or.jp/college/gallery/

表彰式

日程：**2019年5月25日（土）11:00～12:30（予定）**
場所：北とぴあ第2研修室（東京都北区王子）
白尾元理審査委員長による講評を予定しています．
http://www.photo.geosociety.jp/

★街中ジオ散歩

2019年度地質の日記念　第8回街中ジオ散歩in Hamura

「東京の水インフラと地形・地質～羽村取水堰とその周辺～」徒歩見学会

主催：一般社団法人日本地質学会，一般社団法人日本応用地質学会
後援：羽村市教育委員会，一般社団法人東京都地質調査業協会
日時：**2019年5月12日（日）10:00～15:00　小雨決行（予定）**
見学場所：東京都羽村市羽村取水堰周辺
（注）参加申込は締切りました．

★近畿支部：講演会

第36回地球科学講演会 「OSL年代－砂粒に刻まれた時の記憶」

日時：**2019年4月20日（土）15:00～16:30**
会場：大阪市立自然史博物館　講堂
講師：田村 亨氏（産業技術総合研究所）
主催：日本堆積学会・地学団体研究会大阪支部・日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館
定員：150名
参加費無料・申込不要
http://www.geosociety.jp/name/content0165.html#kinki

★北海道支部：地質の日記念展示

2019年度（第12回）地質の日記念展示

「失われた川を尋ねて『水の都』札幌」

都市にはそれぞれの川があります。街は三角州や扇状地のように身近に豊富な水があるところに誕生するからです。札幌は豊平川・琴似川などの扇状地に発達し、川は開拓使時代以前から人々の生活に欠かせないものでしたが、都市化とともにこれらの川は失われてしまいました。本展示では、扇状地の川と泉・北大周辺の「失われた川」を解説し、札幌のかつての自然と風景、そこに暮らした人々について考えます。
https://www.museum.hokudai.ac.jp/contents/calendar/event/14451/
期間：**2019年4月27日（土）～6月16日（日）**
場所：北海道大学総合博物館1階 企画展示室（札幌市北区北10条西8丁目）
時間：10:00～17:00（6月の金曜日は21:00まで）月曜日休館（祝日の場合は翌日休館）入場無料
主催：「地質の日」記念展実行委員会・北海道大学総合博物館
共催：日本地質学会北海道支部・産総研地質調査総合センター・道総研地質研究所・北海道博物館・札幌市博物館活動センター・北海道地質調査業協会
後援：北海道教育委員会・札幌市教育委員会
協力：北海道大学埋蔵文化財調査センター・山の手博物館・サイエンス・コンソーシアム札幌（札幌科学談話会・札幌市中央図書館・札幌市博物館活動研究センター）

＜関連イベント＞
○市民セミナー
会場：北海道大学総合博物館1階「知の交流」ホール
備考：申込不要・入場無料・道民カレッジ連携講座
＊第一回「水の都」札幌－コトニ川を尋ねて　5月11日（土）
13:30～15:00 土曜市民セミナー
宮坂省吾（北海道総合地質学研究センター）
＊第二回「水の都」その誕生と消滅 ～身近に残る水の痕跡～　6月9日（日）13:30～15:00
古沢 仁（札幌市博物館活動センター）

○市民地質巡検　街中ジオ散歩 in Sapporo「コトニ川を歩く」
コース：北大正門から西へ→桑園駅東→西11丁目（石山通）→大通西8丁目「鯨の森」
日時：5月25日（土）10:00～16:00 少雨決行
集合：10:00　北大正門前（札幌市北区北８条西５丁目）
解散：16:00　中央区大通西8丁目
定員：高校生以上20名（先着順）
参加費：500円（資料代・保険代など）
案内人：宮坂省吾（北海道総合地質学研究センター）・内山幸二（山の手博物館)
備考：昼食や飲み物、雨具をご持参ください。ハイキングに適した服装・履物でお越しください。
申込方法：往復はがきに（1）氏名（2）住所（3）年齢（4）電話番号を記入の上、北海道大学総合博物館「巡検係」宛にご郵送ください。**5月17日（金）必着**

お問い合わせ：北海道大学総合博物館
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
TEL：011-706-2658　https://www.museum.hokudai.ac.jp/
2019年度地質の日記念展示「失われた川を尋ねて『水の都』札幌」
https://www.museum.hokudai.ac.jp/contents/calendar/event/14451/

★その他

地質の日記念講座「三浦半島活断層群主部，北武断層を歩く！」

主催：三浦半島活断層調査会
後援：日本地質学会，横須賀市
日時：**2019年5月4日（土）10:00～15:00　小雨決行**
集合：千駄ヶ崎バス停10:00
コース：（1）千駄ヶ崎の逗子層（2）北武断層ガウジ（3）葉山層群の年代（4）トレンチ調査跡（5）ボーリング調査跡（6）

野比東ノ入公園（断層と開発）
講師：浅見茂雄（三浦半島活断層調査会研究員）
注意事項：履き慣れた靴でご参加を．弁当，飲み物，雨具は各自持参
申込：往復葉書またはE-mailにて住所・氏名・電話番号をご記入の上，**4月26日（金）までに**下記連絡先までお申込下さい．
参加費：500円（資料代＋保険料）
連絡先：三浦半島活断層調査会　事務局　赤須邦夫方
〒249-0008　逗子市小坪5-16-1
電話・FAX 0467-24-0935
メール akasu@jcom.zaq.ne.jp

CALENDAR

2019.4〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2019年

4月　April

★関東支部2019年度総会・地質技術伝承講演会
4月13日（土）14:00〜16:45
場所：赤羽会館 4F小ホール（東京都北区赤羽南1-13-1）
http://www.geosociety.jp/outline/content0197.html

○トークセッション「一家に1枚 日本列島7億年」をよみとく
4月21日（日）
会場：日本科学未来館 5階　コ・スタジオ（東京都江東区2-3-6）
登壇者：磯崎行雄・辻森 樹
＊地質学会のWEB教材体験会も同時開催
http://www.geosociety.jp/news/n141.html

○第18回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会
4月25日（木）〜28日（日）
主催：NPO法人 日本地質汚染審査機構
共催：地質汚染診断士の会・日本地質学会環境地質部会・IUGS-IMGA日本支部
会場：日本地質汚染審査機構関東ベースン実習センター（千葉県香取市）
http://www.npo-geopol.or.jp

5月　May

○2019年度春期（初心者向け）地質調査研修
5月20日（火）〜24日（金）
場所：島根県出雲市長尾鼻周辺
申込締切：5月13日（月）正午
https://www.gsj.jp/geobank/geotraining.html

★2019年度（第11回）代議員総会
5月25日（土）14:00〜15:30
会場　北とぴあ 第2研修室（東京都北区王子）
http://www.geosociety.jp/outline/content0017.html

日本地球惑星科学連合2019年大会（JPGU Meeting 2019）
5月26日（日）〜30日（木）
会場：幕張メッセ
http://www.jpgu.org/meeting_2019/

○第222回 地質汚染イブニングセミナー
5月29日（水）18:30〜20:30
場所：北とぴあ901会議室（東京都北区王子）
講師：門間 聖子（応用地質株式会社 技術本部技師長室 技師長）
演題：自然由来の重金属等に関する環境リスクマネジメントと改正土壌汚染対策法
http://www.npo-geopol.or.jp

6月　June

○2019年石油技術協会春季講演会
6月12日（水）〜13日（木）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）
http://www.japt.org/index.html

○地質学史懇話会
6月23日（日）13:30〜17:00
場所：北とぴあ803号室（東京都北区王子）
若林　悠：行政組織の「専門性」と「評判」の構築―気象行政における「エキスパート・ジャッジメント」と「機械的客観性」の制度化―
木村　学：北海道の地質学研究 150年，雑感

○第223回 地質汚染イブニングセミナー
6月28日（金）18:30〜20:30
場所：北とぴあ902会議室（東京都北区王子）
講師：宮崎 淳（創価大学教授）
演題：「水循環基本法の理念と地下水の法的性質〜公水私水区分論からの脱却〜」
http://www.npo-geopol.or.jp

7月　July

（後）第56回アイソトープ・放射線研究発表会
7月3日（水）〜5日（金）
会場：東京大学弥生講堂（文京区弥生1-1-1）
https://www.jrias.or.jp/

9月　September

（後）第63回粘土科学討論会
9月10日（火）〜12日（木）
（講演会：9月10〜11日，現地見学会：9月12日）
会場：埼玉大学（さいたま市桜区下大久保225）
http://www.cssj2.org/publication/annual_meeting/

○日本鉱物科学会2019年年会
9月20日（金）〜22日（日）
場所：九州大学
http://jams.la.coocan.jp/index.html

○第36回歴史地震研究会（徳島大会）
9月21日（土）〜23日（月・祝）
会場：徳島大学 地域連携プラザ 地域連携大ホール
http://www.histeq.jp/menu7.html

★日本地質学会第126年学術大会（2019山口）
9月23日（月・祝）〜25日（水）
場所：山口大学吉田キャンパス（山口市吉田）
講演申込締切：7月3日（水）（予定）

○日本火山学会2019年度秋季大会
9月25日（水）〜27日（金）
場所：神戸大学（兵庫県神戸市）
http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html

11月　November

国際ゴンドワナ研究連合2019年総会・第16回ゴンドワナからアジア国際シンポ
11月8日（金）〜10日（日）
場所：高知県立県民文化会館（高知市）
野外巡検：11〜12日（室戸ジオパーク）
https://www.data-box.jp/pdir/5d75abb24f024058a6a72700bb5e59e9
お問い合せ：Prof. Darren Lingley（高知大学人文社会科学部）：E-mail: lingley@kochi-u.ac.jp

追　悼

名誉会員　吉田　尚さんを偲ぶ

本会名誉会員の吉田　尚（たかし）さんは，本年3月1日に肺炎のため逝去されました．98歳でした．心より哀悼の意を表します．

吉田さんは1921年（大正10年）愛知県渥美郡高師村（現豊橋市南部）でお生まれになり，福島県の旧制磐城中学校から旧制第二高等学校に進まれた．1944年に東京帝国大学理学部地質学科を卒業された．卒論は当初に韓国サムチョク炭田の古生層を1年上級の小林国夫氏に引き続いて調査（共著で地質雑に1949年公表），しかし，途中で戦時下の事情により本国に戻らざるを得ず，もう一つの卒論を北上山地水沼地方のジュラ系について急遽調査してまとめられた．短時日に二つの卒論という稀有な事態は，その後の変転目まぐるしい履歴の予兆であったように見える．卒業直後に応召され，南方戦線へ，サイゴンで病臥してシンガポールに移送され，スマトラ油田赴任時に敗戦を迎え英軍の捕虜となった．シンガポールの収容所部隊から殿組で引き上げた．学徒出陣に等しい南方戦線への従軍体験は，以後吉田さんの“平和への強い願望”の根源になっていた（ご本人の述懐）．

復員後，吉田さんは商工省石炭庁に就職された（年月不明）．勤務先は磐城の平支局で，常磐炭田第三紀層の堆積機構に関する論述が陶山国男氏との共著（1952）で残る．1950年6月30日付けで通商産業省（前年に商工省から改組）工業技術庁地質調査所に入所された．1949年に新発足した5万分の1地質図幅事業の進展が期待される中で，吉田さんは北上山地西部の「人首」図幅（1954出版）と「大迫」図幅（1956出版）の古生層を分担された．超塩基性岩や花崗岩を先行的に調査していた広川　治さんと共同であった．1955年6月に地質調査所北海道支所転任を命ぜられ，道内の5万分の1図幅調査に身を投ずることになった．「幾春別岳」（1955出版：支所転任前から踏査），「本別」（1959），「比宇」（1959），「上茶路」（1961）の４図幅である．この時期，吉田さんは九州の「伊万里」図幅や宮崎県のダム調査にも加わっており，まさに東奔西走の忙しさであったろう．

1958年7月地質調査所本所に戻られてから，吉田さんは北上山地北部の地質図幅への取り組みを再開（「釜石」は1954に調査開始），陸中海岸沿いに南から北へ，「釜石」（1961出版：単著），「大槌」・「霞露岳」（1964），「田老」（1970），「宮古」（1984），「陸中大野」（1987）の各図幅を，花崗岩分担の片田正人さん，白亜系の田中啓策さんらとの共同でまとめられた．それらの成果は20万分の1地質図「盛岡」（1984）に盛り込まれた．吉田さんは図幅調査から得られた知見を基に，後述するコノドント化石の分析などを加味して，北上山地の地体構造区分，東北日本と西南日本の地質学的関係などについて，1960年代から1980年代に多数の論文を書かれた．主要な論点は，①北部北上山地を北部北上帯，岩泉帯，田老帯に3区分し，それらの道南渡島半島の中・古生層への延長を検討．②田老構造線の北への延長について下北沖海域物理探査データを検討して道西部に追跡し，北上山地と日高帯との境界位置と構造関係を論じた．③地質学的な西南日本と東北日本の境界については，礒見博氏の考え（日本地質構造図，1968）を支持，発展させ，棚倉構造線TTLの重要性を強調．④試論として，西南日本との比較において北部北上帯を秩父帯プロパー，岩泉帯を三宝山帯に対比する考えを示した．更に中央構造線MTLは茨城県南東部で屈曲・分岐して西側が阿武隈帯の西縁TTL，東側が南部北上帯の北東縁を限る早池峰構造帯に続くとし，阿武隈・南部北上帯は足尾帯（内帯）と秩父帯（外帯）との間に挟まれた古い陸塊であるとの考えを提起し，西南日本へMTL沿いの“失われた陸塊”との関連を暗示させた．以上の論述は構造研会誌no.26（1981）に概述されている．

1970年に吉田さんは林信吾氏を代表とするコノドント団研の立上げに参画し，足尾山地の中・古生層を精査しながらコノドントの生層序の確立を目指した（1972地質雑，1974地球科学，1991年総括論文）．他方，八溝山系と足尾山地との関係，北部北上山地の各層，南部北上のシルル系，道南の古生層などについて，青木ちえさんらと共同でコノドント化石による年代の検討から地体区分との対応を吟味された．この頃以降中・古生層の研究は，放散虫化石による年代決定が学界を席巻しており，北部北上山地においてもジュラ紀放散虫化石が全域的に見いだされ，吉田さんの構造区分に疑問が呈された．しかし，岩相構成や地質構造の相違，コノドント化石との関係などに関する吟味をふまえての検討が必要であろう．

吉田さんは1970年2月に地質部地質第一課長に就任され，広域的地質編纂や日本列島の地質総括といった重責を担われた．An outline of the geology of Japan（3rd ed., 1975），Geology and mineral resources of Japan（古生層の分担執筆）（1977），100万分の１日本地質図（2nd ed., 1978），300万分の1日本列島および周辺部構造地質図（1981），環太平洋北西区陸域のテクトニックマップ（1997）の編纂にも携われた．1960年代からのUpper Mantle Project（UMP）では水沢を観測拠点とするA-zoneにおける地質分野のメンバーとして活躍され1973年の英文報告書取りまとめも分担された．

1980年前後に吉田さんは痛風や狭心症を患われ，一時期は大変苦しまれたが，その後回復され，ご長命に過ごされた．1983年10月に地質調査所を退職され，横浜市郊外に在住，1984－1989年には日本地質学会事務局長として本学会の運営に携われた．また，人一倍の社会的正義心から環境問題に関わり，東京都日の出町廃棄物処分場の地下水汚染の問題について調査結果を取りまとめられた（1997）．

吉田さんは，たいへん温厚な性格で，分け隔てなく人と接し，神様と比喩されるような寛容さと優しさを持した泰然自若な方でした．2011年秋にお会いした折には，若き日から踏査を重ねた釜石，大槌，宮古，田老の地が2011年3月の東日本大震災によって壊滅的に被災したことに慨嘆されておられました．

追悼文執筆に際し，吉田さんの経歴と研究業績について，山田直利さんに多くの教示を頂き，地調での経歴は宮崎一博さん，それ以前の履歴と写真はご遺族から提供を受けました．生前吉田さんから受けた多大なご指導に深謝すると共に，心よりご冥福をお祈り致します．ご遺族は奥様（栄様），ご長女，ご長男が健在でおられます．

（**滝澤文教**）

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，２冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生４割引，正会員２割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ２割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス—その意義と問題点—．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒350円
第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192pp., 1993年６月刊，会員頒価3,100円，〒300円
第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年４月刊，会員頒価3,100円，〒350円
第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年４月刊，会員頒価2,000円，〒350円
第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第 45 号　~~シーケンス層序学—新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，~~**（売り切れました）**
第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年９月刊，会員頒価 1,900円，〒300円
第 47 号　日高地殻—マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年４月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan—　岡田博有ほか編，188pp.，1997年６月刊，会員頒価 2,100円，〒350円
第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年３月刊，会員頒価 2,500円，〒350円
第 50 号　~~構造地質　特別号—21世紀の構造地質学にむけて—．狩野謙一ほか編，~~**（売り切れました）**
第 51 号　地震と地盤災害—1995年兵庫県南部地震の教訓—．岡田博有ほか編，162pp.，1998年３月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年９月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒360円
第 54 号　タフォノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，~~**（売り切れました）**
第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年３月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年９月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第 58 号　~~地震イベント堆積物—深海底から陸上までのコネクション—藤原　治ほか編，~~**（売り切れました）**
第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年５月刊，会員頒価2,400円，〒350円

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震災害—　1995年４月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo－Pollutions 1997年２月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地をめぐる水—水環境と地質環境—　2001年５月発行　会員頒価300円（非会員400円）
日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員頒価500円（非会員600円）

地質リーフレットたんけんシリーズ**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**
１．箱根火山たんけんマップ—今、生きている火山　2007年５月発行　会員頒価300円
２．屋久島地質たんけんマップ—洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい—　2009年３月発行　会員頒価300円
３．城ヶ島たんけんマップ—深海から生まれた城ヶ島—　2010年９月発行　会員頒価300円
４．富士山青木ヶ原溶岩のたんけん—樹海にかくされた溶岩の不思議—　2014年３月発行　会員頒価300円
５．長瀞たんけんマップ—荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう—　2016年２月発行　会員頒価300円

地質リーフレットシリーズ
１．箱根火山　2007年７月発行　会員価格1,000円**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）１枚200円（非会員300円）

電子書籍シリーズ
地学を楽しく！：ジオパーク・ジオツアー・地学オリンピック　　2013年12月発行　［Kindle版/PDF版］　定価1,380円

講演要旨集ほか
第118年見学旅行案内書（2011年水戸）　　会員頒価2,800円，〒500円
第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円
第117年見学旅行案内書（2010年富山）　　会員頒価2,800円，〒500円
第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　　会員頒価2,800円，〒500円
第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　　会員頒価2,500円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知，2007年札幌，見学旅行案内書は，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価１冊500円．
クリアファイル：学会創立125周年記念オリジナル．A4対応両面カラー．3枚１セット500円．

一般社団法人日本地質学会第11回総会開催について

第 11 回総会を下記の次第により開催いたします.

2019 年 4 月 6 日
会長　松田　博貴

2019年5月25日（土）　14:00 ～ 15:30
会場　北とぴあ　第 2 研修室（東京都北区王子 1-11-1）

総会議事次第
1．議長選出
2．開会
3．議案
　第 1 号議案　2018 年度事業報告・決算報告
　第 2 号議案　2019 年度事業計画
　第 3 号議案　2019 年度予算案
　第 4 号議案　名誉会員の選出
4．閉会

1．定款 20 条により，本総会は役員ならびに代議員による総会となります．代議員には，総会開催通知とともに総会に必要な資料等を別途お送りいたします．ご都合で欠席される方は，定款 28 条第 1 項にもとづき，議決権行使書および議決権の代理行使（委任状）などにより，総会に出席したものとして議決権を行使することができます．
2．正会員は，総会に陪席することができます．ただし，総会規則 12 条 3 項により，許可のない発言はできません．

同日同会場にて下記の催しが予定されています.
第 10 回惑星地球フォトコンテスト表彰式・展示会　時間：11:00 ～ 12:30

地質リーフレットたんけんシリーズ4

富士山 **青木ヶ原溶岩のたんけん**
ー樹海にかくされた溶岩の不思議ー

シリーズ1・2・3
「箱根」「屋久島」「城ヶ島」
も好評発売中！

編　著：日本地質学会地学教育委員会
発　行：一般社団日本地質学会

定価400円（会員頒価300円）
※20部以上ご注文の場合は割引あり

青木ヶ原の「溶岩」をテーマにしたリーフレットができました.
道の駅や西湖コウモリ穴など，アクセスしやすい観察ポイントです．写真やイラストをふんだんに使用し，わかりやすく火山現象を解説しています.

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

地質の日事業推進委員会事務局
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター
TEL：029-861-3540 FAX：029-856-4989

地質の日事業推進委員会：（一社）日本地質学会、（一社）日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、（国研）産総研地質調査総合センター、日本堆積学会、日本第四紀学会、（一社）日本鉱物科学会、日本科学未来館、（地独）道総研地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、（一社）全国地質調査業協会連合会、（NPO）地質情報整備活用機構、（公社）東京地学協会、（独）国立科学博物館、全国科学博物館協議会、（NPO）日本ジオパークネットワーク（順不同：2019年3月現在）

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp